

科目名	デザイン史			
授業形態	講義	学年	2	
開講時期	2022年度 前期	単位数	2	
担当教員	時野谷 茂			
内容および計画	デザインそれは社会と密接に結びついた人間の行為である。デザインの歴史においてもある種の流行、時代を特色づける流れといったものがあるが、それらは様々な形で他の社会現象と影響しあっている。特に建築においてはそれらが顕著に現れている。本講義の目標はデザインが社会の中の幾多の事象とのかかわりの中で生まれることを理解するとともに、様式の特徴や意味を理解できるようにすることにある。			
1	デザイン史で何を学ぶか。日本建築界の近代化にみる西洋建築			
2	日本建築界の近代化にみる西洋建築			
3	古代ギリシャ建築			
4	古代ローマ建築とビザンチン建築			
5	ロマネスク建築とゴシック建築			
6	ルネッサンス建築とバロック建築			
7	様式の意味の変貌（新古典、歴史主義）			
8	新しい技術と建築デザイン			
9	近代に向けて（アーツ・アンド・クラフツ運動 他）			
10	近代に向けて（アール・ヌーヴォー、セセッション 他）			
11	近代に向けて（ドイツ工作連盟、ロシア構成主義、）			
12	産業とデザイン（バウハウスのデザイン）			
13	産業とデザイン（グラフィックデザイン）			
14	産業とデザイン（インダストリアルデザイン）			
15	まとめ			
教科書				
	タイトル	著者名	出版社	ISBN
必要に応じ資料を配布する。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊倉 洋介 他 『西洋建築様式史』 美術出版社</li> <li>・阿部 公正 監修 『世界デザイン史』 美術出版社</li> <li>・柏木 博 『デザインの20世紀』 日本放送出版協会</li> <li>・竹原あき子、森山明子 監修 『日本デザイン史』 美術出版社</li> <li>・藤森照信、『日本の近代建築』（上、下）岩波新書</li> </ul>			
成績評価				
	評価方法			割合(%)
	授業内での質疑への応答内容、家庭学習の成果等			10
	授業で行う小テストの結果			30
	最終レポート			60
配布資料は事前に精読しておくこと。				

学習到達目標	様式の変遷を把握しその特徴を理解すると共にそれを成立せしめる要件等を理解する
先修条件	
実務経験	実務経験あり：日本近代建築の調査や再活用計画等を主な業務とする建築設計事務所を8年間経営し実務に当たった経験がある。また、会津大学短期大学部へ着任後も、同種の調査研究や実務のアドバイス等を行った経験がある。
その他	必須・選択の別：選択